

## Contents

- オリエンテーションに参加しませんか?
- エッセイ「書籍とのふれあい」
- 私のおすすめ本
- 3階資料室を活用しよう
- 研究室訪問
- 話題の書棚から
- 図書館の現場から
- 図書館の豆知識
- 図書館利用状況

- 図書館の中を見てみたい
- 図書館はどう利用したらいいのかな?
- どんな資料があるの?
- 探している資料が図書館にないんだけど…
- オンラインデータベースの使い方が知りたい …など



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。  
在校生のみなさんも春休みの間リフレッシュ  
して新学期を迎えられたことと思います。

毎年図書館では新入生を対象にオリエンテーションを行っています。図書館がどのようなところなのか、どんな資料があり、またどのように利用したらよいのかなど、図書館の利用法全般について、よりよく知ってもらえるようにご案内します。

新入生だけでなく、まだ一度も図書館に足を運んだことのない人やもっと図書館のことを知りたいという人も歓迎します。

また雑誌記事・論文や資料の探し方など、インターネットを利用して実習形式で行う文献検索オリエンテーションは、これからレポートや論文を作成する機会の多い学生のみなさんにぜひ参加していただきたい内容となっています。

## オリエンテーションに参加しませんか?

- 新入生オリエンテーション
- 文献検索オリエンテーション

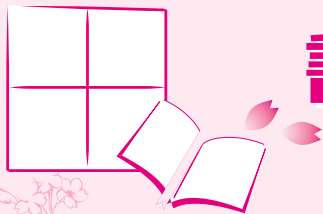
申込受付 4月 9日 月 から

実施開始 4月 16日 月 から

※どちらも年間通して受付・実施できます。

図書館報 Vol.25 2007年4月発行

編集発行／福岡工業大学附属図書館  
〒811-0295 福岡市東区和白東3-30-1  
TEL(092)606-0691  
FAX(092)606-7389  
ホームページ <http://www.lib.fit.ac.jp>



# 書籍とのふれあい



福岡工業大学附属図書館長

村山 理一

**エッセイ**ということからは最も縁遠い私が、はて何を書いたら…と意思つつ、まずはこれまでの私と本とのつきあいについて振り返ってみたい。よく無趣味・無芸の人が「趣味は？」と聞かれた場合、「読書」のように答えることが多いと思うが、私も、そういう典型的な人間の一人である。ただし、最近はそれすらも怪しくなっている。情けない話である。また読書の内容も、いわゆる純文学等はどうしても肌に合わず、雑学本中心で、年を経るに従って、その中で読む分野が移り変わってきている。

**私の読書**のスタートは幼稚園ぐらいからで、字がある本が読めるのが嬉しくて姉たちの持っている本を一生懸命読んでいた気がする。小学生になると、読書の中心は学校の図書室(多分そう呼んでいた)に移り、図書室にある本は許される限り手当たり次第読んでいた。もちろん小学生向けであるが、一番バランス良く、あらゆる分野の本を読んでいた時期だと言える。

この中で一冊、強烈に記憶に残っているのは、ノーベル物理学賞を受賞された湯川先生の伝記小説で、子供心に感動し「自分も湯川先生のように偉業をなしたい」と強く思ったものである。この思いは私を理学部・物理学科入学まで邁進させてしまったが、今はちょっと後悔というのが本音である。

学校図書室中心だった小学生時代に比べると、中学・高校時代は次第に本屋で買う比重が増えていった。自分の興味がある分野で図書館にある本はだいたい読み終えていて、それを補う形で本屋の最新刊を…ということであったかと思う。しかしながら、まあまあバランスのとれた読書生活ではなかったかと判断している。大学に入ると、大学図書館は自分の専門分野の調べ物のため、本屋は趣味の世界の本という形で区別して利用するようになっていった。趣味の世界とは何かというと推理小説、SF小説が中心であった。レンズマンシリーズ、スカイラークシリーズ、ファウンデーションシリーズ、アガサクリスティ物、エラリークイーン物、松本清張物と今でも、もう一度読んでみたい気がする懐かしい名前である。

**就職後**はというと、実は大学時代とほぼ同じパターンで、企業の図書室で専門分野の本や文献を読み、趣味の本は本屋でというスタイルである。ただ趣味の本の中心が次第に、企業小説や歴史小説に移っていった。

結婚してから、ここ15年間ほどはどうかというと、実は趣味の本すら読まなくなってしまった。その分、専門書や文献をと言えればまだ良いのだが……。このまま本か

ら遠ざかってしまうのかと思いきや、子供が本を読むような年齢になって、「子供にも読書を」というつもりで連れて行った市民図書館で、久しぶりに書棚を眺めてみた。すると興味のある分野の本がシリーズで並んでいたり、思いがけない本が見つかったりという感動があり、市民図書館が大好きになってしまった。ただし私はいろいろな事情で、住居を転々とした為、今の住居もまだ2年程である。一昨年まで住んでいた所は風光明媚でご近所の人柄も良く、極めて住み易いところであったが、唯一の不満は市民図書館がないことであった。図書館の良さをいったん思い出すと無いことの理不尽さがとても不満に感じた。「図書館がないような市は市では無い」とずっとぼやいていた。現在の住居は、景色はたいしたことはなく不満は多々あるが、唯一立派な市民図書館があって、引っ越して良かったと、家族で私一人満足している。ちょうどその頃、授業で高校の数学・物理の復習科目創設の話があり、図書館で数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、Cや物理Ⅰ、Ⅱの本を何度も借り直して読んで大変参考になった。図書館は使えるなあとしみじみと有り難みを感じた覚えがある。

**現在**毎日利用している大学の図書館というのは、市民にとっての市民図書館以上に、大学である以上なくてはならない存在だと思う。今はインターネットが発達し、文献検索はオンラインで出来るし、オンライン書籍もある、学会の予稿集もCDで配布されパソコン上でいつでも見られる。しかし古い人間かもしれないが、オンライン書籍は使えない。読みたい本はどうしても手に取ってみる。読みたい文献は印刷物にして読む。勿論インターネットの利便性は充分享受させてもらっている一人であるが、どうしてもインターネットでは代えることのできない部分がある。図書館で本を手取ることに喜びを感じる。

こうやって思いめぐらしてみると、小学生や中学生時代のようにあらゆる分野の本を(多少偏りはあっても)、読む習慣をもっと大人になるまで続けておけば、もう少しましな人間になっていたのではと強く後悔する。その時々、色々な人と話をし、また書物を読ませてもらうことがあるが、自分の浅学を思い知らされることばかりである。その人がどれだけ深みのある人かは、もちろん持って生まれてきた人格によるものも大きいと思うが、それにプラスしてどれだけ自分の糧となる書籍に触れているかは極めて大きい意味を持つと思う。これは一朝一夕で築き上げられるものではなく、もう手遅れかもしれないが、心を入れ直して様々な分野の書籍に挑戦していきたいものである。



# 私のおすすめ本



社会環境学科  
准教授

山室 敦嗣

## 「証言 水俣病」 栗原彬 編／岩波新書

熊本水俣病に関しては、現在も数々の報道がなされています。しかし、私たちは、水俣病の患者さんたちが、どのように生き、何を訴えているのか、具体的に思い描くことができるでしょうか。この本は、1996年に開催された『水俣・東京展』での、水俣病患者10名の講演をベースに構成されています。その証言からは、家族や親しい人たちの死、突き刺さるような差別と偏見の数々、チッソや行政との裁判闘争などのような壮絶な生の形だけではなく、水俣病と向き合うなかで他者とのつながりや自然とのつきあい方を甦らせていった姿がたち現れてきます。そして、私たちの胸につきささってくる幾つもの言葉に出会います。たとえば、網元の一人娘として生をうけ最初に提訴した杉本栄子さんは、「水俣病も、自分たちが求めんでも自分に来た“のさり”と思おいと。だから、本当につらかった水俣病でしただけでも、水俣病のおかげで私は、人としての生活が取り戻せたように思います」と。こうした患者さんの言葉が何を意味するのか、直接この本を手にとっていただければと思います。



この本は 本学に所蔵。B 493.15/K 3階文庫コーナー／3階資料室にあります。



広報課

磯田 高秀

## 「さぶ」 山本 周五郎／新潮文庫

愚直で誠実なさぶと利発できかぬ気の強い栄二を主人公に、多彩な人物が、江戸下町、人足寄場を舞台に織りなす感動溢れる人情小説。「小雨が霏のようにけふる夕方、両国橋を西から東へ、さぶが泣きながら渡っていた」のイントロから「悪かったよ栄ちゃん、勘弁してくれ、おらだよ、さぶだよ」のラストまで物語は栄二を中心に展開するが、読後いつまでも心に残るのはさぶ。栄二が九死に一生のケガをしたとき夢の中で「死ななくておくれ栄ちゃん、しっかりするんだよ」とさぶが必死に叫ぶ。ともすればつらく当たる栄二だがそのとき初めて心底さぶのことを思う。「おれのまわりにはさぶの心と眼が、片ときもはなれず付いてまわっていたのだ」と。2人の無償の愛と友情を丁寧に軽快なテンポで描き一気呵成に読ませる。心に響く多くの箴言は若い人への人生指針。図書館にも山本周五郎の本がありますのでご一読を。



この本は 福岡市総合図書館で所蔵。本館を通して借りることができます。

## 3階資料室を 活用しよう

図書館3階閲覧室の奥に「資料室」という部屋があります。資料室なんて少し入り難いような名前ですが、実はとても利用価値大の部屋なのです。閲覧室ですからもちろん自由に入ることができます。ここにおいてある資料は指定図書、教科書・入門書シリーズ図書、本学修士・博士論文、21世紀の必読書100選となっており、みなさんの大学生生活、講義、研究、課題をサポートしてくれる資料ばかりです。基礎から勉強してみたい人、講義の内容にちょっと迷った人、研究を充実させたい人などなど、皆さんの資料室活用をお勧めします。

### 指定図書

担当教員が講義の進行に沿い、学生に必読書として紹介している図書です。講義、レポート作成、定期試験などの資料として大変参考になります



### 教科書・入門書シリーズ図書

学協会(日本学術会議協力学術研究団体)編纂のシリーズ図書をそろえています。各学科の学習分野の基礎を理解するための教科書・入門書的な資料ですので、参考にすることで講義内容の理解度が高まり、学習の幅を広げることができます。



### 21世紀の必読書100選 (雑誌「あうるーら」より)

アンケートにより近現代の名著として選ばれた本をそろえています。これから生きるためのテキストとして役に立つことと思います。



### 本学修士・博士論文

本学先輩方の学位論文です。研究を充実させるため、卒業論文作成などに参考にしてください。

## 研究室訪問

### システムマネジメント学科 松尾研究室 (B棟3階)



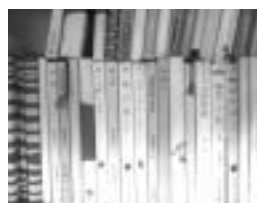
松尾 哲子先生

「あら！こんにちは！どうぞ研究室の中へ！」と、元気に研究室へ迎え入れてくれた松尾哲子先生。専門は社会情報システム。書棚には『日本経営工学会論文誌』をはじめ経営工学関係の学会誌や『日経情報ストラテジー』といった経営情報誌がズラリ。最近の研究テーマとしては「在宅高齢者のケアと地域活性化ネットワークに関する研究」を扱っているそうです。

そんな松尾先生、実はかなりの読書好き。研究室の一角には洋装様々の文庫がびっしり。「特にミステリーが好き。日本人作家も海外作家もたくさん読んでます。」と、会話の中で次々出てくる、宮部みゆき、内田康夫、西村京太郎、野沢尚、アガサ・クリスティ、エラリー・クイーン等々、大御所の数々。

と、ふと壁面に目をやると、過去に研究室を卒業していった学生たちが先生に送った記念写真や寄せ書きが飾ってあるのを発見。きっとここに写ってる学生たちも、みんな先生から元気をもらってたんでしょね。だってみんな良い顔してるもの。

松尾先生——いや、寄せ書きにもあった風に親しみを込めて、哲子先生。これからも周りに元気を与え続けてください。



◀ 洋装さまざまの文庫「ミステリーが特に好きです」

▶ 「日経情報ストラテジー」には企業名を記した付箋がびっしり。



# 話題の書棚から

4月はスタートの季節、心機一転の季節、希望に満ちた季節、そして出会いの季節ですね。大学も新年度が始まりました。どのような大学生活になるのでしょうか？  
図書館では、みなさんの心に残る、また支えとなるような1冊との出会いを願い色々な本をそろえています。その中から今回は新年度にふさわしい本をご紹介します。

## 『誇り高い技術者になろう』

ー工学倫理ノスメー』 黒田光太郎ほか編

507 / K (4階話題書コーナー)

工学や倫理学を専門とする大学の先生方がこれから工学を学ぼうとしている学生に向けて共同執筆されました。工学と倫理とは一見結びつきませんが、社会の中に工学を位置づけて考えること、ユニバーサルの(公平・自由・簡明)考慮ができること、工学を通して平和に貢献できる技術者を育てることを目標とした倫理教育が語られています。内容のモデルは技術社会ですが、すべての社会人に通じる大切なことを教えてくれる、工学部だけではなく全ての学生さん、教職員の方々にも一読をお薦めしたい1冊です。



## 『3週間続ければ一生が変わる』

ーあなたを変える101の英知ー』 ロビン・シャーマ著

159 / S (3階話題書コーナー)

著者は「人生のコーチ」としていまやアメリカ・カナダで名を広め、多くの人々に影響を与えている人物です。その著者自身が深く感銘を受け、実際に行動をしてみても人生のプラスとなったことがらや習慣の数々を紹介しています。タイトルからわかるように、いわゆる自己啓発本なのですが、何れにせよ新年度をきっかけに、少しずつ良い習慣を身につけることは悪いことではありません。自分の中で何かが変わる1歩になるかもしれませんよ。



## 図書館の現場から

第4回  
受入作業編

### ～図書館業務をクローズアップ～

受入作業とは、購入、寄贈などにより入手した資料(図書、雑誌、視聴覚資料など)を、福工大図書館の蔵書とするために行う作業です。受入作業では、まず入手した資料1点1点に福工大図書館での登録番号を付けます。次に図書館管理システムに資料データ(タイトル・著者などの書誌情報、請求記号、配架場所など資料の所在を把握するための所蔵情報)を登録します。システムでの登録が終わると、資料本体に請求記号ラベルを貼るなど装備を整え配架します。受入作業は、資料管理や蔵書検索(OPAC)など図書館資料を管理するために欠かせない作業です。



## 図書館の豆知識

まめ  
4

### ～知っててトクする図書館のはなし～

【コピー機】 図書館のコピー機は普通のコピー機とはちょっと違います。図書館独自仕様の超高性能で超高速マシン、というわけではないのですが、実はその違いは「著作権法第31条(図書館等における複製)」に定められています。

図書館のコピー機は、コンビニエンスストアなどに設置してあるコピー機と違って、「図書館資料に限り」「全体の半分以下の複写で」「調査研究の用に供するため」に使用できるとされています(実際にはもっと詳細に規定されています)。裏をかえせば、図書館資料でないものは図書館ではコピーできません。よくある例で言うと、試験前に図書館に来て友達の本をコピーする、これはNGです。

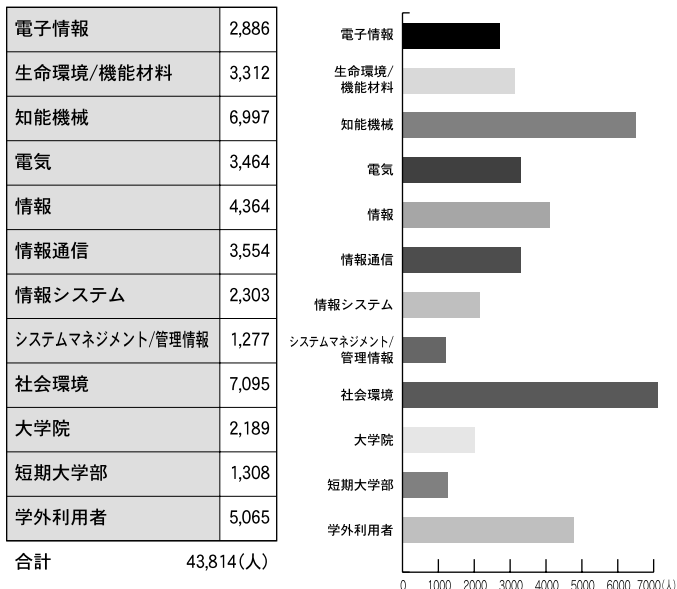
図書館のコピー機もコンビニのコピー機も、見た目には何も変わらないのですが、見えない部分で大きく違うのです。今度図書館でコピー機を見たら思い出してください、著作権法。



## 図書館利用状況

(平成18年4月1日～平成19年2月28日)

### ●学科別入館者数



### ●学科別貸出資料数

